

# 市政を問う!

## 11 議員が登壇 (一般質問)

### 観光振興対策・就学援助について問う



森元 秀一

**森元** 震災ミュージアムの市の考えは。

**秦観光課長** 観光課の視点からの回答ですが、田んぼや道路などの地割れ箇所は復旧に入りますが現場への案内、語り部の増員、トレッキングを通じた防災教育の検討等、これらについて火山博物館、道の駅「阿蘇」等の関係機関と共に今後も協力を進めていきます。

**森元** 火山モニターツアーの計画の進捗状況は。

**観光課長** テストツアーを一度行い、その後、阿蘇火山防災会議協議会の総会で諮っていたとき、安全チェックを行った上で、最終的な判断をさせていただきます。

**森元** 「JRななつ星」のルート変更は。

**観光課長** 来年3月からななつ星の運行が再開します。3泊4日のコースで、毎週火曜、博多を出発したななつ星は、深夜11時30分に阿蘇駅に到着し車中泊。2日目の朝、専用バスで阿蘇山を観光し、その後、

阿蘇駅の「火星」で朝食を取られ、午前10時頃に阿蘇駅を出発するような計画になっています。

**森元** 「火星」の営業管理は。

**観光課長** 阿蘇市内のレストランが、オーガニック系の料理を提供される予定です。

### 就学援助について

**森元** ランドセル等の入学前支給を可能にするためには。

**市原教育部長** 市の認定基準は、所得税の非課税世帯です。準要保護児童の場合は、住民税の均等割り課税世帯が対象となります。要保護の把握については、3月末には把握できませんが、準要保護については、最終的な把握が7月になる関係上、支給が遅れてしまうのが現状です。



中岳火口

# 阿蘇火口の再開時期と見学への提案



市原 正

**市原** 先般の全員協議会で、阿蘇火山の火口見学については、ガス検知器の設置後と説明を受けたが間違いないか。

**秦観光課長** 火口見学エリア、火口周辺は環境省が管理するエリアになり、ガス検知器を含む火山ガス警報システムの設置が来年2月末になると環境省から回答がありましたので、火口見学の再開はそれ以降になると思われます。

**市原** 火口を見学することは、阿蘇観光の大きな目玉であり、一日も早く再開を望むものです。噴火後、議員団で周辺視察を行った際、議員の中から火山灰を除去せず、ありのままの阿蘇火口を見てもらう方が良いのでは。以前、使用していたマウンテンカー道路を活用し、四輪駆動車を走らせてはどうか等の意見があった。そこで、市に提案するが、四輪駆動車を走らせたかどうか。マウンテンタクシーとして活用し、乗客



火口見学モニターツアー

(見学者)は、ヘルメット、ガスマスクを装備し、携帯用のガス検知器を携行して火口見学する。世界が目にするような観光形態をここで創る必要があると思うが。

**観光課長** 今のご意見を受け止めて、今後、防災機関との協議を行い、検討させていただきます。

他に「阿蘇山噴火被害の対策について」等の質問がありました。

# 女性の農業委員会委員の役割は



田中 弘子

**田中** 農業委員会における今後の重点課題と女性委員の役割についての見解は。

**宮川副市長** 今回から、市長が任命する制度へと変わり、3名の専業農家の女性の方が同意されました。最近では農業の6次産業化という言葉が多く使われ、阿蘇地域も新たな観点から、これを強く進めていくことが必要であると感じています。

**園田農業員会事務局長** 今回の法の改正は、1番目に農業規模の拡大、農地等の集団化。2番目に耕作放棄地の発生防止と解消。3番目に農業への新規参入の促進が強化されたことがあげられ、この改正の中には女性や青年の積極的な登用促進があります。今後は、女性委員の方々に研修を多く積んでいただき、女性目線で阿蘇市の農地を守るための取り組みを期待しています。

**吉良経済部長** 農地は大切な財産です。阿蘇の農産物は観光的作用を担う要素も含んでおり、今後は委員の方々にもご協力いただき、互いの

相乗効果へと繋がることを願います。

**内牧地区の堤防嵩上げ工事について**

**田中** 花原川、宮原川堤防嵩上げ工事について、内牧を守るということだが、平成24年の水害時、黒川が氾濫し、町に水害をもたらした。県はこれらの状況を踏まえて計画されたのか。

**中本建設課長** 本工事は西小園橋から上流へ1.7kmに及ぶ工事になります。嵩上げ高が平均で1.5m、橋梁部では4m程度の嵩上げになります。黒川本流の断面改修、上流部の遊水地工事と併せて、黒川のバツクウォーターの影響が及ぶ花原川、宮原川を改修することで、内牧の浸水被害を防止するものです。



阿蘇市農業委員辞令交付式

# 子どもたちが希望を持つ阿蘇市に



園田 浩文

**園田** 平成29年度市内の園児数は、**本山福祉課長** 6月現在で入園児1,009名、利用定員は1,025名となっています。

**園田** 待機児童数は。

**福祉課長** 本年6月時点は0です。昨年は年度末で31名の待機児童があり、0歳児がほとんどです。なお、国が示す待機児童の定義では、特定の園を希望する為に入れない児童は待機児童に含まれていません。

**園田** 保育士不足の解消法は。

**福祉課長** 国の定義では、保育士1人当たり0歳児3名、5歳児であれば30名を保育することができ、昨年年度末31名の待機児童があり、公立保育園において任期付保育士を5名採用しました。

**園田** 出生率低下に伴う育児手当の支給年齢の引き上げについては。

**福祉課長** 育児手当は市の単独事業、一般財源で賄っております。現在、年間3,500万円の支出となっていますが、1歳引き上げると、年間1,200万円程度の増額となります。



工事中の農村公園あびか（陸上競技場）

**園田** 子育て支援も財源的に厳しいと思われるが、市長の考えは。

**佐藤市長** 改善すべきは改善し、子育て世帯、障がい者、高齢者の方々に関する環境整備は、必要に応じて検討し、積極的に進めて参ります。

## 社会体育施設整備について

**園田** 農村公園あびかのグラウンド、阿蘇体育館の復旧工事の進捗状況は。

**日田教育課長** グラウンドは、ウレタンチップの流し込みによる施工、競技場の外周舗装の沈下部分を整備し、年内には修復を終える予定です。阿蘇体育館は、今後、郡市の人権研修会、秋にはNHKのご自慢大会等、大きな行事が控えています。入札が3回不発となりましたが、設計額を見直し、8月末までには修復を終える予定です。

# JR豊肥本線の復旧と代替バスへの影響は



谷崎 利浩

**谷崎** 日曜、祝祭日、平日の昼にJR代替バスが無いので、外国人がJRフリーパス券を使えない。インバウンドを考えるなら対策が必要では。

**秦觀光課長** 代替バスの増便は出来ないと言う返事でしたので、市町村長の連名、それと観光協会の連名で昨年12月にインバウンド対策も要望活動しております。

**谷崎** 阿蘇西部の阿蘇中央高校生は未だに不便な通学のままで。代替バスは峠を越えて来るのでよく遅れる。宮地発も1時間から2時間の待ち時間がある。直接送迎する保護者も多く、負担が大きい。以前の通学に近づく様、早期の阿蘇・市ノ川間の開通要望を。

**観光課長** 同区間内、特に内牧・市ノ川間の被害が大きい事、採算に合わない等を言われましたが、引き続き全面復旧に向けた要望を行って参ります。

**谷崎** 震災復旧関連の減額補正が数億円に上っている中、代替バスの運行されていない時間帯を市で負担

出来ないか。

**市原教育部長** 市からの補助の予定は有りません。担当は、県立高校ですので県の高校教育課、私学振興課が窓口になります。また、関係市町村でいろいろ動きがありますので、連携を取って復興基金メニューに挙げる等、検討して参ります。

**谷崎** 地元高校に対する進路と通学についての意識調査は。

**山口財政課長** 阿蘇中央高校にはアンケート調査を実施したいと思っております。

他に「国道57号の復旧、阿蘇こいの村等について」の質問がありました。



国道57号（阿蘇大橋付近）